

百人一首圖會
月



嵯峨の寺院のまことに色彌形
の百首とて毛下うつりてかくも
せうとうじゆのよのまことひ
めやあくと見ゆとれりあは
うねうねすゝ可かむ門まで初字の
料りりりりりりりりりりりりりり
あふとよみとよひふと

うと見ゆるを覺ねてとくにのう
一の水は大へき何のれへうば
さかくら村の女房りとやまくま
おひたすらとくとくとくとくとくと
おとととすとすとすとすとすとすと
ぬととととととととととととととと
ぬととととととととととととととと

の道をよそしとよそしとよそし
こよしは百首の圖繪しとよとよ
は一田の敬儀しとよとよとよと
とよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよ
よとよとよとよとよとよとよとよ
よとよとよとよとよとよとよとよ

アラタニハシの威勢(アラタニハシノイセイ)を
アラタニハシに付してアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢

アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢
アラタニハシの威勢をアラタニハシの威勢

我の身はえどもひし公見
ゆにまよし向せのへきひよみ
まゆ本とむかうとて終とよもじ
窓の下に筆をすくひる

文化四年八月廿二日

富小路殿

心之佐刑部卿貞直

三

自叙

百人一首は。弟極喜つら。なにうし入さ
乃。もとめみよわて。うそあつめられし
こと。のれの。日記にまことわざるを。
いつ乃比よでう。うすふ。おてもやして。
ある。よろもしあおりの。うすふをひん。
はうさうし。つけぬ。うなゐらま

て。まきをふと見て。うちみよせめり。う
あうに。うるゝ乃そろへ。しるく
るは。まれまれハ。山水の。ナセハ。きを
に。こ。ふ。し。い。と。れ。つ。く。ま。し。き。を。
つけ。な。と。し。て。み。よ。さ。い。こ。の
こ。う。れ。ほ。う。る。こ。れ。び。る。ん。う。あ。絵。て
ふ。も。乃。意。る。と。て。こ。れ。る。え。の。ど。き。こ。と

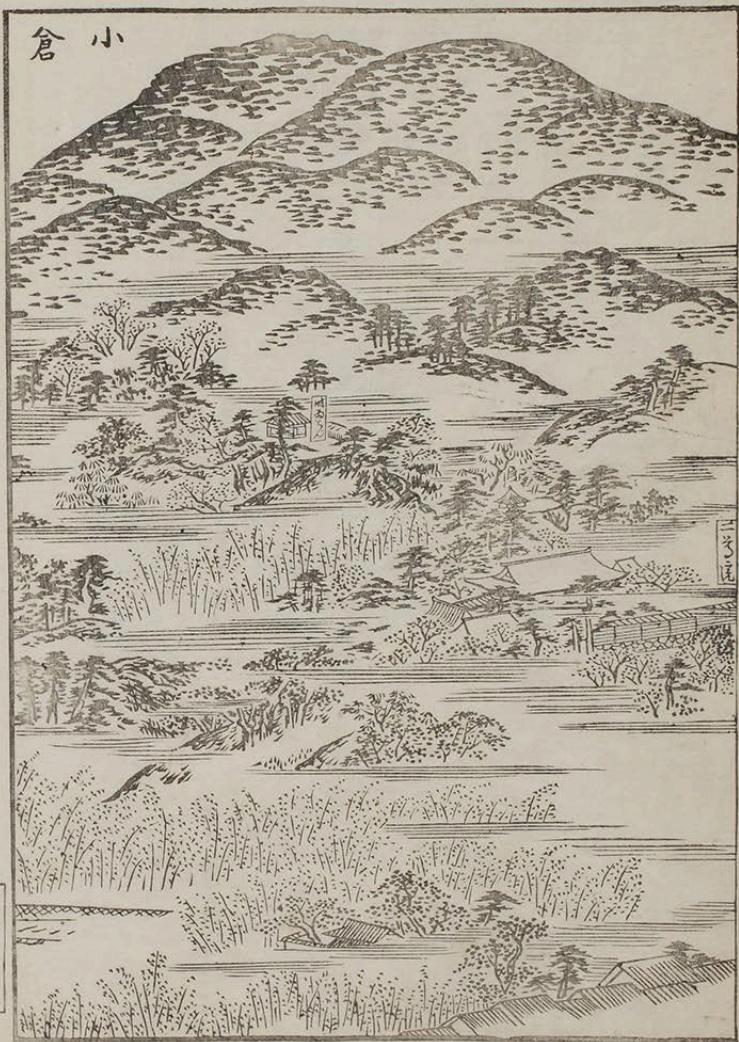
せ。よ。と。こ。ふ。を。お。く。しけ。ふ。と。た。ひ。こ。
え。い。な。め。と。せ。ち。み。い。へ。は。り。て。や。う。せ
渡。済。を。と。ね。る。こ。う。ぬ。う。ある。ら。う。ため
す。も。れ。せ。ぎ。と。ひ。を。ひ。る。こ。と。い。も。て
う。た。い。し。う。き。あ。ら。せ。る。を。の。し。れ
ら。せ。ひ。と。の。い。う。れ。す。く。み。う。き。を。と
に。じ。ら。す。よ。こ。よ。る。う。あ。ひ。ら。す。

おとこぬへう。おはゆれはやまから。
をこうぬしや

さつきせもしめ

たやまゆそれと
しるす

古今首歌會



天智天皇

御父舒明天皇御母
皇極天皇天皇少名
葛城皇子

秋乃の音乃
のの音乃

音をあ
つづくもむきよき



百ノ

一

指統毛宣

御父天智天皇御母
遠知娘天皇少名
麿野讚良皇女

あらゆて夏

あらゆけし

あらゆくの

あらゆすく

天皇東山



柿本人麻呂

孝照天皇。皇子
天押前日子命
後父祖不詳

里引乃

山名鶴

尾の

よを

ひと

をの

なま



父祖官位不詳

山名赤人

田ふの浦子

うちもて

アレモ

あらわしの

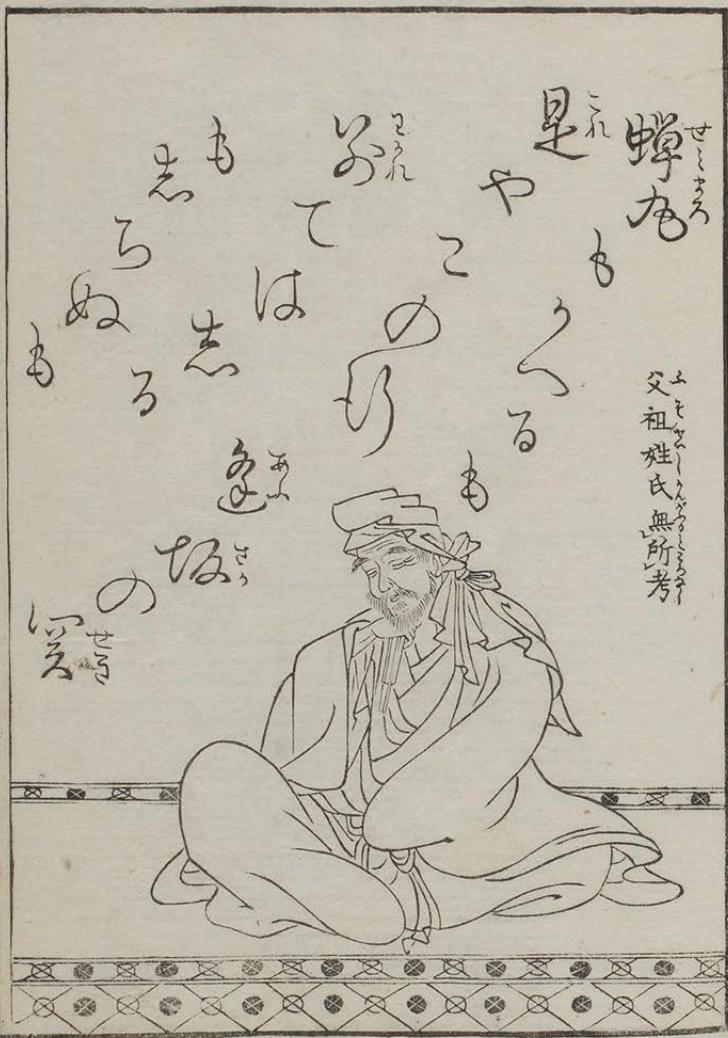
たるま

わらわしの









參議 築

父 參議 正四位下 拳守
文德實錄仁壽二年十一月
參議大辨從三位

小野朝臣築薨云

和田源ハ十

參議 築

父 參議 正四位下 拳守
文德實錄仁壽二年十一月
參議大辨從三位

小野朝臣築薨云

島
から
けて
漕
び
ぬ
と
人
み
る
皆
よ
う
と
の
お
の



僧正遍昭

あは

天
つ
仰

從四位下 良峯朝臣
安世男龙近衛少將
良峯朝臣宗貞出家号遍昭



せ
も
と
め
く
じ
よ
を
の



光孝天皇

御父仁明天皇
御母藤原澤子
天皇御誕時康元慶八年即位
御年五十五仁和三年崩五十八

子みよやめ

妻の野乃

いふくにうか
つまむか
こうも
うきは



百ノハ

中納言行平

平城天皇皇子彈正伊四品阿保
親王子也母不知誰天長三年賜
在原朝臣姓

いふくにうか
山乃
のうも
いなも
立あま
たす
い
ま
い







素性法師

僧正遍昭在俗時子也
大和物語扶桑畧記等
ニ出タリ



文屋康秀
ふんやのやすひいて
不知父祖字文琳古今序
三河掾

大に千里

參談音人卿男十吉房也作者
部類延喜二年兵部大臣ト有

月これも

物ころ

あがひとく
秋よき
あれ
あまく



菅家

父三位是善卿也菅相亟名道真宇多天皇
侍讀昌泰二年右大臣四年為太宰權卿坐實
也延喜三年二月廿日薨於西府

おのてえ

都も

おのてえ

とく

あへ

もみちの

しゆ

ふた

ひけ

すふ

神乃

山



三條右大臣

父内大臣高麗公此右大臣定方公也延長二年正月從大納言任右大臣義平二年八月薨

名

あ
ら
ま
く
る
さ
く
よ
し
か
山
の
人
子



貞信公

父昭宣公基也貞信公忠延喜九年擢中納言同
十四大納言ヨリ右大臣ニ轉へ延長二左大臣
同八攝政兼平六大政大臣天慶二薨贈正一位
謚貞信公封義濃國

小倉

山

いづ

旅宿

ふり葉

かみ
み
の
も
あ



中納言栗浦

祖父内金人食國父左中將利基
兼輔延喜共一參議延長徒

三位中納言同八兼右衛門督
義平三處

み、乃、い、う、い、つ、い、そ、
お、れ、て、う、お、い、か、う、

ら、ん



源宗子朝臣

父一品式部卿是忠親王
御子天皇也宗子朝臣右京

太夫正四位天慶三年卒

山里

人目

ちふふり
さくさと
あくろ
も葉

柘ぬ
さくさと
あくろ
も葉

み、い、
と、と、
と、と、
と、と、
と、と、







紀友則

ちうの

かす

木角宿
少輔也

古今序大内記

先也一說
友則宮內
在友子也云



紀貫之

不知父祖古今序御書所
預作者部類天慶八年三
月廿八日任木工頭同九年
卒

人 は い

も

な い

ろ

し

け

ふ

く

ひ

ふ

さ

と

か

う

あ

う

あ

う

あ

清寧

大系圖舍人親王五代
之孫房則之子從五位

下云云

夏のよみ

や

す

な

月

や

ゆめをくし
りつ











謙徳公

父九条右大臣謙徳公伊尹天錄元年
任右大臣同三年大政大臣同三年薨贈
正一位封三河國



百九三

重根好忠

不知父祖任丹後掾号勇丹
寛和之比人云云

由良

信

あいぬ
まち乃
かひ人
かぢを
いひも



惠慶法師

不知父祖實和之
比人云

八色

三種

ちげふる

かのめ

人

小

秋

け

ア



風を源重之

重之冷泉院東宮侍時帶力云
祖父貞元親王父從五位下侍従兼傳

岩はみ

あそ

は乃

お

いみ

こ

岩う

う

木の

木の

色

色

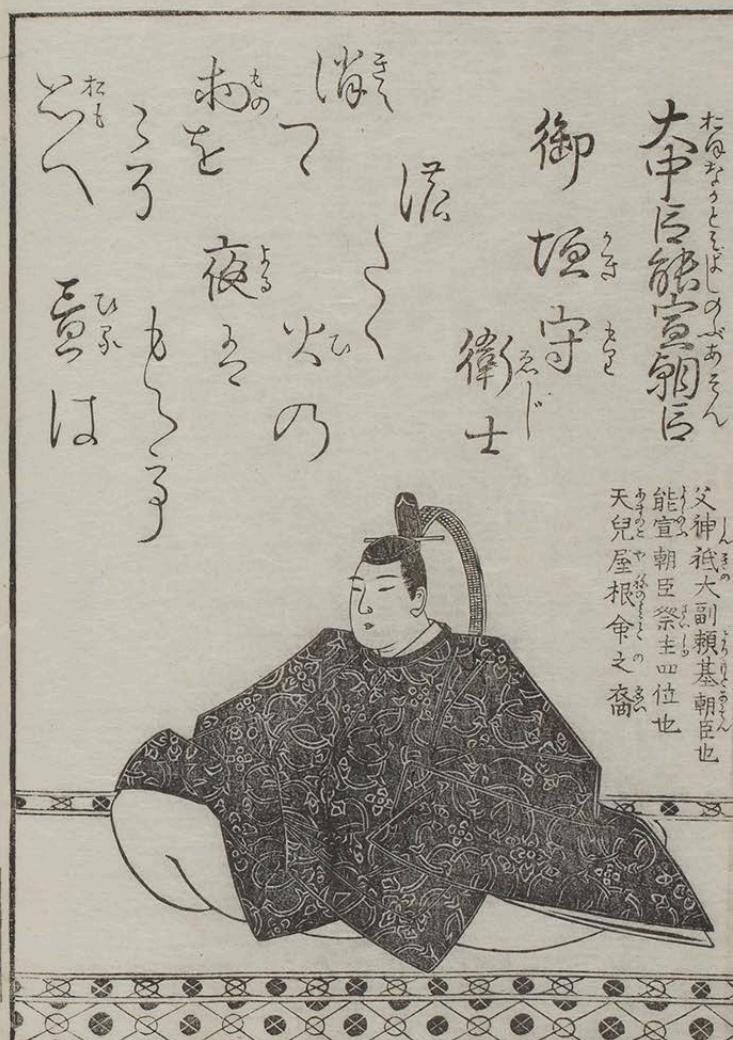
れ

れ

水

水









大納言公任

祖父小野宮實賴父頼忠父母三品中務
卿代明親王女也公任卿称四条大納言

た
れ
は
れ
る
て
か
く
か
く
け
め
れ
と
な
く
な
く
し
ま
き



和泉守三郎

父大江雅致母城前守
保衛女也上東門院女
房和泉守権道貞之

あ
ら
い

す
ら
ん

つ
る
の

あ
き

こ
も
う

の
の
の

か
の
う
か
で
こ



紫式部

祖父中納言兼猪卿父從五位下藤原
爲時也左衛門佐藤原宣孝妻源氏物語
詔作者也

うく
かく
くられ
え
いり
よ
くらむ
くらむ
くらむ
くらむ
くらむ
くらむ
くらむ
くらむ



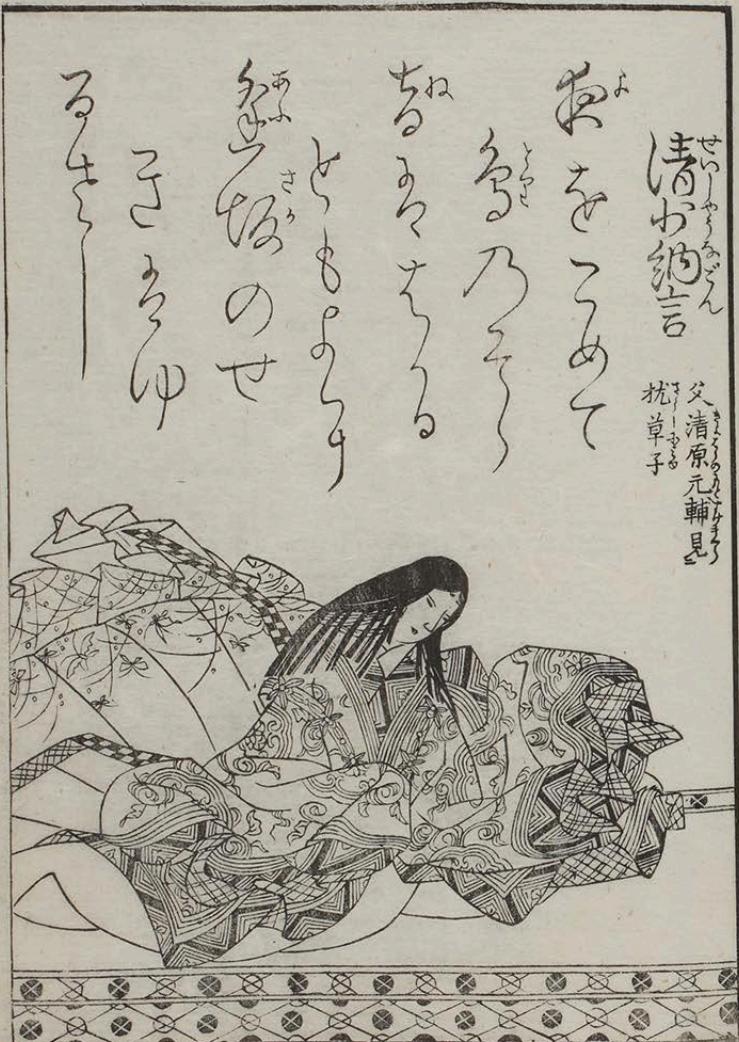
大式三位

父藤原宣孝母紫式部大戴
成章妻也爲後一條院御乳母
故叙三位

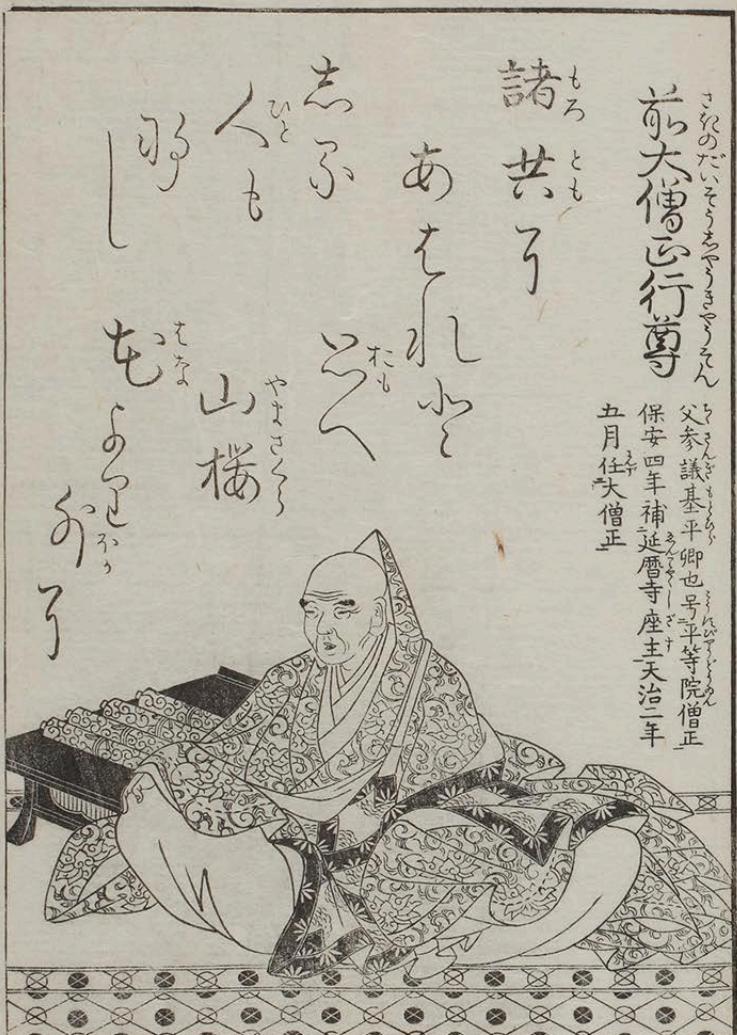
有馬山　りそとす
猿名山　ひととす
乃人を　のととす
うれす
うれす
うれす
うれす
うれす
うれす
うれす
うれす
うれす











周防内侍

父周防守平継仲求説後冷泉院
女房作者部類白河院女房袋冊
子堀川院二侍

春の夜の夢

はるかなるをとくとくおもひをもくとくとく

甲斐

なくくわせ





大納言經信

祖父六条右大臣重信公父推中納言
道方卿經信卿兼保正三位承保三位
權大納言實治五位大納言同尖室權
即嘉保三正月薨於西府八十二

かよ
いな
秋風
うゆく
かよ
れし
たと
芦の
よもや



祐子親王紀傳

散位平經方女紀伊守
重經妹也依号紀伊



葛原基俊

祖父堀河右大臣頼宗公父
正三位右大臣俊家公基俊
從五位下左衛門佐也

葛原基俊

おもひをいのち
あらわす
おもいぬき



百九八

和田原法性寺入道高圓実政大臣

父知足院關白忠實母六条
右大臣頭房公女此公忠道公
應保二年出家長寛二年四
月薨

和田原
法性寺入道高圓实政大臣

出

漕

出

みれぞ
みれぞ

まゐる子

仲つ

向は



右西 崇德院

御父鳥羽院御母待賢門院御諱
顯仁保安即位承治元讓位保元元
移坐讚岐國崩謚崇德院

頬を笑ふせ

遊行のうやうふ



源兼昌

父美濃守後輔兼昌從立位
皇后宮大進

紫く鳴鳥の小聲
よふかゆふ

寝坐えぬ

閑居の





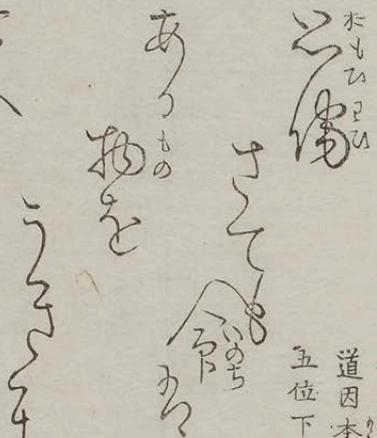
後徳大寺左大臣

祖父徳大寺實能公
父太政御門右大臣公
能公母中納言信忠
綱女



道因法師

木もひひの
祖父對馬半敦輔
父治部丞清孝也
道因本名敦頼從
五位下右馬目也



皇太后宮大夫後成

祖父大納言忠家卿父權中納言
俊惠卿也俊成卿仁安二年貢

世 中 よ

通 こころ

奥

も

木 も い

廉

ひ

いふ

山 乃



若原清捕翁

父左京大犬頭捕卿也清捕
朝臣太皇太后宮大進正位
下或說此人歎弘才益入ナ
シトイリ

ま く く そ

虫 こ ろ や

志 の を れ せ

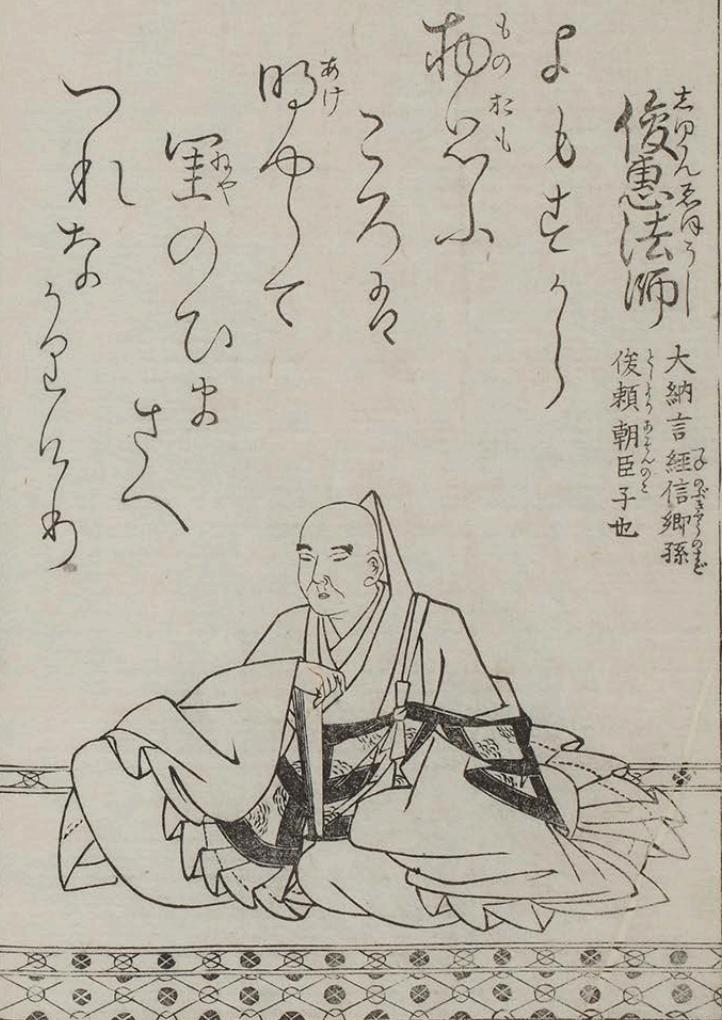
う く く い こ ろ

三 一 よ う い す は



古伊人名画
俊惠法師

大納言經信卿孫
侯頼朝臣子也





なふもひ乃

皇嘉門院崇徳院
后法性寺忠道公女也
別當大皇后宮亮
俊隆女也

芦のうきねれ
がを
ひより
ゆも

おこりろくそ

葉木秋ヌ
まきあさ
村乃立
あもいぬのい
かさする

寂蓮法師

父俊海阿舍梨俊也為俊成卿養子
明月記建仁二年七月廿日午時許參
上左中辨少輔入道寂蓮逝去下署



式子内親王

たゞ

御父後白河院御母從三位
成子大納言季成卿女也齊
院准三官

まのをよみ
ゆふなむも

まのをよみ
ゆふなむも



殷富門院太浦

祖父後白河院判官代
行惠文從五位上信成
殿富門院後白河院皇女也

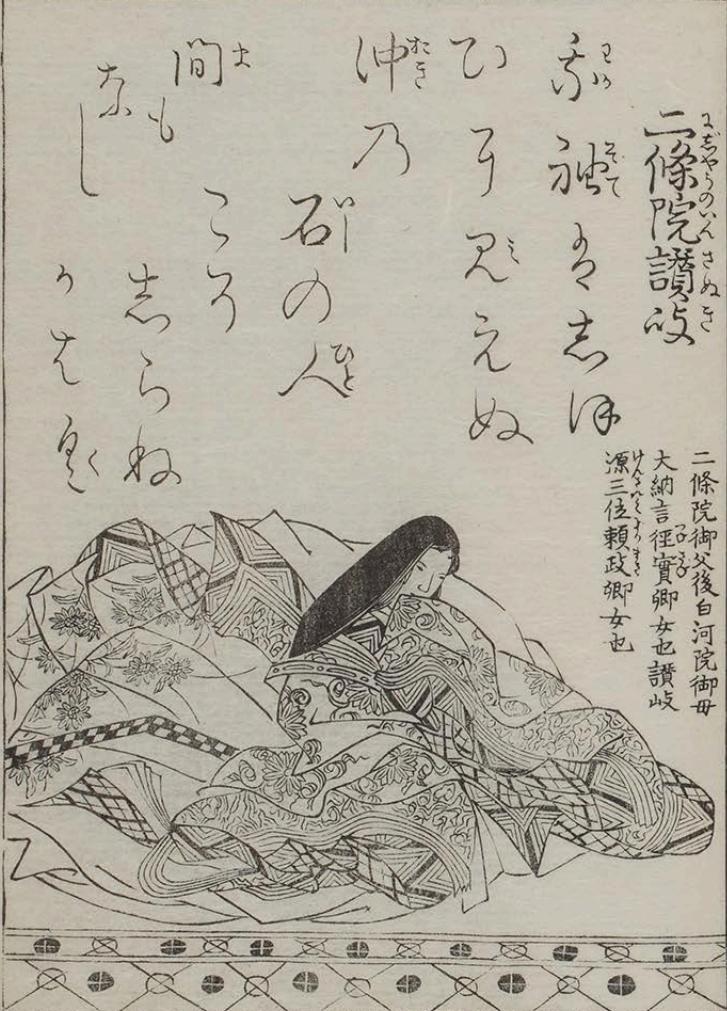
みせをやなみ

をよ乃み

あ士のぬき

も





鎌倉右衛門

父右大將頼朝母北條時政女政子
也建仁三叙從五位下神征夷大將軍
建曆三正三位建保四權中納言同六
內大臣同羊右大臣左太將如元同七年

世の事

事ありも

か
ま
も
清
て
く
小
み
み
乃
の
も
も
弓
の
も
も



百四十九

參議雅徑

父刑部卿頼經母頭稚女也稚經
卿義久二從三位同十二月參議
同三薨兄宗長卿難波家此卿
飛鳥井家共跋躅家祖也

真

吉

山の秋

落

小夜

色

古綱

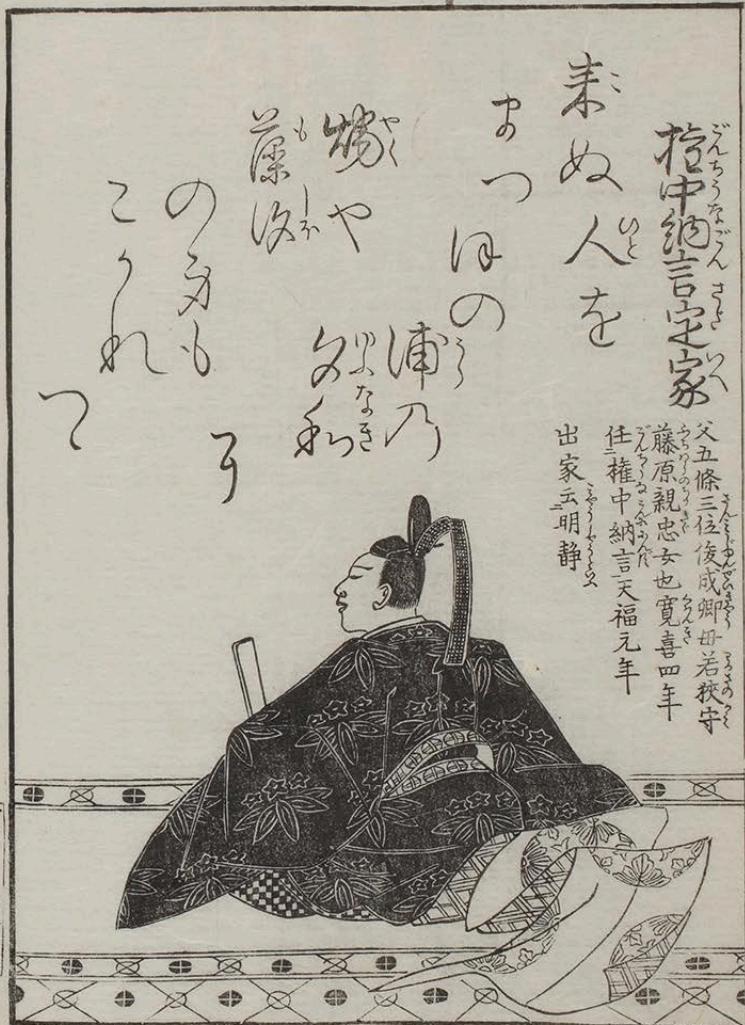
こと

ゆくうや

也







後鳥羽院

御父高倉院御母
贈左大臣信隆公女
也御諱尊成



百五十

順徳院

御父後鳥羽院御母
贈九大臣範季公
女也御諱尊成



古說係圖

諱ち高城御坐後十年追に國大津宮志實郡御母皇極天皇御明國之御明之皇誠之御天下渾圓之系圖云母后的座圓初の御天孫御天孫也考田原天皇大化十年壬戌十二月三百八朔御五十八年天命開別尊とく天舒明天皇

舒明天皇

足渟王

皇極天皇

天智天皇

天武天皇

持統天皇

元明天皇

有馬王子

後即位

天智天皇母帝丹明天皇ナリ

女帝第四皇后

天智天皇弟の皇女又鶴野讚良皇女諱

高天原廣野姫の天皇又兔野御母へ越智

姫大臣義我山田石川丸女より天武天皇の

后草壁皇子乃母后なり系圖也上みやう

都ハ大和國高市郡奈原宮大室二年十二月

崩ドキ

持本丸
天智天皇乃時の人もしく敦光卿の人丸の諱云太夫姓も持本名へ人丸上世の故人なり仕持統文武之聖朝遇新田高市皇子ニ

山邊赤人
又祖不祥神龜天平の頃り人也
或も聖武の御時ろ人もしく一説人丸と同時の人也

安倍仲衡

右傳云官姓時代等不知之或系圖云用明天皇聖德太子山背大兄王号猿丸太夫云弓削王祇注云天武御子弓削道境汎号久之此既不審聖德太子御孫弓削王と猿丸太夫と号したが故道境法師と云と弓削了

中納言家持

天平九已久生安危孫族人子と云一說天智天皇大伴皇子子多都年麻呂黑主秋須民先私木黒主子弟の夜須良加と安林石と同人也沒在中納言東宮太夫右大弁や氏經う又征夷大將軍小任延正暦四年八月左陸奥薨

天文道本清明先祖也

持統天皇

唐一說內唐古傳云船守子從三位安倍朝衡息云又大納言朝平男と云此兩共以不審系圖寺不載元正天皇六月為學生渡唐賜姓朝臣又差裁不皇御即位始かく又百年如何又不審或抄仲磨遺唐使相武天皇の御時と云江陵寺云仲磨の御宇大弁宰相藤常絶とて唐朝まほるる時も歸朝と云々元正天皇吳龜二年より嘗戎天皇御即位始かく又百年如何又不審或抄仲磨正道到吳國天文陰陽子秀吳朝人惡之令禁固て遂教化して爲鬼伏之吉備九渡唐時見是形教授天文曆術算計儒書令來朝乃仲磨孫秉等尚達天文傳其業云陰陽道中安良

喜撰法師

古今序本喜撰或ハ基泉一本擣赤良丸本云
一本开部卿名廊朝臣息云基泉抄系圖等
每所見一說よ山城國乙訓郡人也云兔道山
の隠侶遺跡御室戸本云和歌式と作又基泉と
云人づ化和歌式周今云鴨長明普名抄云
御室戸の奥本井給下都今宇治山乃喜撰が住む
孫りく家々をも石塔など立たむ

蟬丸

仁明の時う道人也常小髪伏てだ世人利と云或
仙人も寺三光院御鏡世人自目と云はる後
撰性好り詞書を相承り因て往來の人々多く
云く眞風也と見ゆる實ノ人首と云て五湖に
申れ其箇と誰も極へ居ゆる且其頃惱憊衆生全
又延喜の皇子も云う甚不可教古今より人の歎ひ
延喜帝も十三歳も御節度す延喜五年の
頃八十二歳も云う甚可哀也

小里小町

出羽郡司小野當澄女云く仁明の時の人妻和
須も云はま草に云小野小町も云ふ
てさうかばらむと云ふを玉造と云
より高野大師山也の日源に久保の通称
伊勢守山也と云ふ小町も云ふ事多き後方
もかねてと云ふ小町も云ふ事多き後方
もかねてと云ふ小町も云ふ事多き後方

參議賀皇

姓小野 參議 左天井 男野相
水見 大鐵冠納言小野臣推喜遺傳
敏達天皇 春日皇子 妹子毛人 毛野
道風 正三位内蔵助母 修学寺前
陸里不移臣下 徒臣下三刑君
安守 大氏 賀皇 保衡 阿波守
此冥六破軍星の化身也 好古 采葵弁

僧正遍照

良峯宗良号花山僧正又号良僧正寛平二年

正月十九日滅住良因院仍賜改因朝臣

仁明天皇

安世右大將。允中正位後以

左中將安世八男

法名遍照

俗名玄利

雲林院別當

由信

宗貞

素性

雲林院別當

俗名玄利

良峯

正三位大納言冬副之同母

何原左大臣

源融

嵯峨天皇

淳和天皇

平城天皇

仁明天皇

安世右大將

法名遍照

俗名玄利

良峯

正三位大納言冬副之同母

嵯峨天皇仁明天皇源融

嵯峨天皇仁明天皇源融

左大臣從一位号河原大臣男女皇子五十人

内也弘仁三年壬辰生淳和天皇皇子細霞

觀大臣の山岸も云く

源融

嵯峨天皇

淳和天皇

平城天皇

仁明天皇

安世右大將

法名遍照

俗名玄利

良峯

正三位大納言冬副之同母

光孝天皇

宗康親王贈大政大臣綱庭女

仁明天皇

文德天皇

清和

陽成院

御諱時康仁明等三皇子号小松帝

源融

嵯峨天皇

淳和天皇

平城天皇

仁明天皇

安世右大將

法名遍照

俗名玄利

良峯

正三位大納言冬副之同母

光孝天皇

宗康親王贈大政大臣綱庭女

仁明天皇

文德天皇

清和

陽成院

御諱時康仁明等三皇子号小松帝

源融

嵯峨天皇

淳和天皇

平城天皇

仁明天皇

安世右大將

法名遍照

俗名玄利

良峯

正三位大納言冬副之同母

陽成院

御諱時康仁明等三皇子号小松帝

源融

嵯峨天皇

淳和天皇

平城天皇

仁明天皇

安世右大將

法名遍照

俗名玄利

良峯

正三位大納言冬副之同母

中納言行平 在原氏号納言

桓武天皇 平城天白王 阿保親王

伊登内親王

藤原敏行朝臣

武智磨 正位允大臣贈大政大臣住式ア卿

大江音人

在原行平

中納言權帥正三位民ア卿
仁和三年致仕配流臧人

在原守平

在原業平

在原仲平

臧人後河守

在原業平

臧人後河守

伊勢
富士丸 — 敏行

三木徒三位右中將太内記
按寧陸直守徒西位下

伊勢
濱雄

三木徒三位右中將太内記
右兵衛督

伊勢
繼莊

三木徒三位右中將太内記
讀活書徒五位上

伊勢
内唐 — 真夏

三木徒三位右中將太内記
讀活書徒五位上

伊勢
関雄

三木徒三位右中將太内記
讀活書徒五位上

伊勢
家宗

三木徒三位右中將太内記
讀活書徒五位上

素性法師

俗名玄利系圖見遍照上古傳云

倍名僖時云又云玄利云官

左近將監或抄清和御時殿上人

寬平御時任律師云不審

伊豫權守正五位下或徒五位下內藏少先

平城天皇 — 阿保親王

大江千里

菅家

小野天神 右大臣正三位右大將贈
大政大臣正一位 天照太神 美二御子
出雲臣土師 連等祖天穗日命十四世
孫野見宿称龜仁天皇御宇賜土師
臣姓三世孫身臣仁德天皇御世改賜土師
連姓十一世孫苦入木天平元六年賜菅原姓

天穗日命

宇庭 阿波守從四位下勘解由長官

古人 袤佐下遠深侍讀

清公 大学以文章博士

是善 長者文章博士

菅家

三條右大臣

定方内大臣高藤二男母宮内大輔號盈女
内舍人勸修寺家祖良門

勸修寺内大臣利基

左中將

兼捕

高藤 定國

定方

中納言

惟正 為時

紫式部 源氏物語

作者

刑部卿大輔從五位下

五位前守

三條右大臣

冬副 良房 基經

本院贈大政大臣

一条右丞相

仲平 批把左大臣

中納言宮内賜正三位

昭宣云

忠平 兼平

中納言宮内賜正三位

師補

時平

本院贈大政大臣

一条右丞相

忠平

中納言宮内賜正三位

昭宣云

貞信公

刑部卿大輔從五位下

五位前守

良房

中納言宮内賜正三位

昭宣云

基經

中納言宮内賜正三位

昭宣云

中納言兼捕

左中將利基の男授中納言と号す
左衛門督後三位系圖三條右大臣

源宗于朝臣

右京太史宗 正三位下

光孝天皇一足忠親王一宗于

用院 繢古今作者

三光院の脚説如斯但帝王系圖にこれ
を載へぬ何ゆ従よ光孝天皇御孫右京
太史致正の子と云ふ

九河内躬恒

古傳云先祖不見甲斐小目御厨
子所預此喜七年正月吉仕丹
波權大目後任淡路掾注行氏孫
湛利子允河姓也又甲斐小目良高
子云く

主生忠峯

右兵衛 府生 木立充忠滿子泉大
將定國隨身右衛門府生御厨子
所定外膳部攝津大目

さるく

坂上是則

大内記從五位下加賀介御書所預り

坂上田丸一廣野一當常

好蔭一是則一望城

後撰之撰者史之内

春道列樹

從五位下雅樂頭新名宿徐

一男一女云

文章博士正一位上壹岐守

出雲守

紀貫之

系圖友則の所生目也う或源より紀文轉子と云童名阿古久曾云玄蕃ひ木権ひ從在上御書所預り

文屋朝康

先祖不見文屋康秀男云延喜の頃故人或說延喜三年

仕大舍人元云

清原深養文

先祖不見云一說豐前守房則男云一說筑前守海雄孫房則子云

從五位下内近充藏人所雜色又云

内藏頭云

右近

右近侍藤李継女右近右近

紀友則

紀有友子云或長谷雄卿末云改在明云光孝天皇三彦太忍信命申極長此命十六代孫

中納言

真道一本道一望行名虎一有常一有友

貫之女子時父

友則女子美室

藤原真風或說下絶權守正六位上沾部少將

曆

号宗家贈

三作和歌或

無名白居易

道成

真風或說濱成孫道成父

勝任史官亮

美均

永谷

卷議等

美濃守龍中弁勧解由尤官

嵯峨天皇

廣橋大納言正三位

希

徒四孫下淡路守

徒五位駿河守

光孝天皇

山城守徒五位上

平兼盛

大武文章博士徒五位下

真雅王

赤濱舊門女房

篤行

大武文章博士徒五位上

秉盛

赤濱舊門女房

壬生忠見

本名忠實忠峯男

天德二年任摶津大司

徒五位上

清原元輔

深養父孫恭光男母

筑前守高向利生女肥後守

椎中納言敦忠

時平三男實國經卿母子母母
之筑前守在原據梁女敦忠卿母
始國經の妻後時至公に嫁以
仍實國經

敦忠

忠仁云

國經

時平

自信云

謙德云

一條摠政伊尹云九條右丞相師輔云男
母武藏守經邦女此公後撰集と撰
時藏人少將和焉所の奉行也贈号
謙德云

自信云

師輔

伊尹

義孝

行成

權大納能書

三昧之內

左少卿塙侍春宮亮

大政大臣謙德云

曾祢好忠

先祖不見寬和頃人云

任

丹波掾云仍号曾丹

任

泉大将

右兵衛中納言

高藤

定方

朝賴

勸修寺

家流

三條右大臣定方二男母中納言山薩

朝忠

號赤門中納言

右兵衛中納言

泉大将

高藤

定國

朝忠

號赤門中納言

泉大将

内大臣

惠慶法師

生祖不見寛和曰人云幡廣國浮師

家集あり

源重之

兼信子兄弟忠爲子云

清和天皇貞元親王

兼忠

三木治部正平賜源姓

兼信

三河守侍從賜源姓

重之

左馬介從五位下相模守
冷泉院方時帶力

藤原義孝

謙德公三男早後女將母中務卿

代明親王女右少將從五位下系圖見

謙德公下

藤原實方

右中將正四位下陸奥守
貞信公—師尹 小一条左大臣從二位
定期時

右太將
侍從五位下兼人母三条右大臣定方女

大中臣能宣朝臣

天兒屋根命

ヨリ十九代孫祭主參賴基男

常盤大連公 中臣八生神支ヲ源

可多能祐連公 國子大連公 國足

意美唐清曾今磨常磨

正良捕道賴基能宣

神親捕經伊勢大捕

藤原實方朝臣

右中將正四位下陸奥守

貞信公—師尹 小一条左大臣從二位

定期時

侍從五位下兼人母三条右大臣定方女

百々五十三

藤原道信朝臣
恒徳公四男母謙徳公女

師輔 恒徳公為亮師輔元男

道信 左中將從四位上一下

儀同三司母

儀同三司伊周公母也從二位高擣業
忠女中關白道隆公室後拾遺女高内

侍より伊周公系

番右大將道綱母下

准子儀伊周公初例准大臣近代云又准撰

共云從一位唐名儀同三司云六格別支也

右大將道綱母

東三条入道閑白兼家女藤原倫寧
女本朝古今三天之内美人也云

師輔

藤原道

母高宗道閑白

号東三条道閑白
又号法真院入道

儀同三司母師內大臣

母高宗道閑白是也

儀同三司後拾遺女高内侍有三子

左馬介從五位下
照宣云从半

冬嗣長良

高經

内藏人全智

兵衛佐嘗守

女右大將母藤長能

左馬介從五位下

京公从三位

是矣

道雅

左馬介從五位下

照宣云从半

倫寧

恒基妻

女妹云

大納言公任

廉義一男号四條大納言母代明親王女權大納言正三位別當能書和漢才人撰拾遺和漢明詠集作者一條院御時号大納言
實賴清性小野宣夫改食

敦敏右中將正位下三兵衛督能書
忠廉義佐理三跡之内号佐助
國寶政大臣公任權大納言正二一定賴位次并能書

和泉式部上東門院姑女房大江雅致女母越守保衡女弁内侍母昌子内親王御乳母云和泉守道貞妻仍和泉

式部云

越前守為時女上東門院女房或鷹司殿女房源氏物語作者母攝津為信女宣孝妻大貳三位母中納言兼輔形ア大夫從五位下准威仁惟正入楚如此

大貳三位高藤定方朝賴大太弁左衛將
右衛門佐宣孝女母此紫式部後一條院御乳母後冷泉院的御乳母大貳成平妻也仍号大貳三位

赤染衛門

上東門院女房或々鷹司殿女房宋花物語作者或々大隅守時用女房仍号赤染衛門一説

光孝天皇是忠親王平無盛赤染衛門平等行妹中閨旨密通之人

小式部内侍和泉守橘道貞女母和泉式部上東門院女房

橘諸兄公十二世孫仲遠

道貞小式部内侍

伊勢大輔

祭主補親母上東門院女房仍号伊勢大輔系圖大中臣能宣下ふあり上東門院中宮の時候

清少納言清原元補女深養父曾孫也一條院皇后宮女房也抗草紙書人也

左京大夫道雅

帥内大臣伊周云男母大納言重光

ス任卿男母照平親王女ゑ圖

ス任卿下に見入り權中納言正

二位父小孝あり一人

權中納言定賴

ス任卿男母照平親王女ゑ圖

ス任卿下に見入り權中納言正

伊周 道雅 従三位左京大夫

女子 上東門院女房室人

宣旨後拾遺作者

相摸

先祖不詳入道一品宮女房本名
侍従或說相摸守大江口資
女或妻正說此故号相摸一
說母能登守廣瀬保胤女

大僧正行尊

三井寺圓滿院祖師天台座主法勢
三條院一條院源基平

行尊 護寺牛車鳥羽白川院護持僧
昔平寺成也入住平等院

周防内侍

仲子後冷泉院女房或宗仲女云一本

葛原親王八世孫棟仲女云

桓武天皇—葛原親王高棟

重義

中納言奏將從三位
其妻子從四位下

惟范

時望

從三位伊勢守

周防内侍

能因法師

俗名永愷長門守云号古曾部入道
肥後守元愷子云

橘諸兄云奈良丸島田丸

常玉 安吉雄 吉種

純行

忠望 元愷能因

良運法師

父祖不詳祇園別當住大原
一說母實方朝臣家女房白

翁云

三條院

諱居貞冷泉院第二御子御母贈皇太后起

子重茶人道撰政兼家云女

六代

冷泉院

花山院

村上天皇

圓融院

一條院

三條院

大納言經信

中納言源道方男母源國盛女

宇多天皇敦實親王

雅信一条左大臣

重信姿養中納言正三位權大納言

俊賴木工房

權中納言匡房

母摘孝親女正三位大藏卿太宰權帥号

江原大江音人千古維時

光童氣哭浦匡衡正三位權中納言和漢文

匡房儒生次才作者號同之

成衡從四位上

匡衡正三位權中納言和漢文

匡房從四位下

匡房太宰次

藤原基俊

俊家公男母陸奥守源為弘女

賴宗正三位大官右大臣

基俊從五位上左衛門佐成通和室師匠

宗通二條家和室祖也新撰明詠撰者

成通正三位侍從大納言

忠通通體人正三位長

源顯仁鳥羽院第一皇子母侍賢門院障子大納言

實女白河院猶子五位

崇德院後白川院オノ宮

近衛院母美福門院

宗德院

譯顯仁鳥羽院第一皇子母侍賢門院障子大納言

實女白河院猶子五位

崇德院後白川院オノ宮

近衛院母美福門院

祐子内親王家紀伊

純伊守重経妻久紀伊

桓武天皇尊高原親王高棟

惟范時望真林親信

行義範國經方女紀伊

武藏守金葉六之文紀伊

源俊賴朝臣

木工頭四位上系圓前おうり經信卿

男母貞高女金葉集撰者

源俊賴朝臣

忠道ス摂政昌大政大臣從三位法名圓規知足

院園白一男母六条右大臣顯房女

道長御堂園白

師道後峯園白

賴通豐原守雅信女

忠實知足院宣家殿

師道要妻守房女

忠實母吳平親王女

忠通法性寺園白

慈圓善鏡和尚

源兼昌良經後栗権

源兼良雅信美濃守

源兼良時中正三位朝任三木

源兼良後栗権

源兼良美濃守

源兼良春舟

左京小太夫顯神

修理大夫顯季三男詞花集撰者号

六條家和致一流

贈大蔵大臣落實男安食

備前守正集出雲守正集大正三位

房前三木良と之谷

真道

真名

連茂

佐忠

時明

賴任

澄經

顯季

家保

家成

顯季

三木從臣

中納言正三位

大納言正三位

修理大夫

修業

待賢門院堀川

神祇伯顯仲女鳥羽院后崇德院後白川二代母后大納言ス實女白川院御猶子

村上才七皇子

壽門右衛門

森友良食

具平親王

師房

顯房

顯仲

神祇伯從玄

女待賢門院堀川

後德大寺左大臣

宣定母中納言後忠女

行藏天納三位

西行法師

俗名義清或則清入憲清藤原康清子

入恭清鳥羽院下向

伊勢守鶴谷

藤成生男

豊澤謙信上五位

林雄左門尉

公光千當從五位上

義清右衛尉濱田臣後改西行

子清文脩將軍

淳子清行

義清左衛尉公清後當

忠大納言

嘉門院別當

皇喜門院別當源後隆女皇嘉門院

國白女母大納言定通女崇德院后近衛院准

母別當八物司儀也

自王嘉門院別當

大藏正而位下

忠母右衛將軍後信女

忠大納言

後澄子大納言

忠大納言

忠行

東蓮法師

俗名定長中務少輔入道尊蓮也俊成
卿播子實俊海子也

俊成定長

卷之三
儀推經

參儀推經形部卿賴經朝臣男飛鳥井

家祖欽鞠新古今撰者之内

京極三位推大納言形部卿三位

師實忠教賴輔

賴經

宗長

難波流形部卿三位

賴經

宗長

難波流形部卿三位

入道前大政大臣

前中納言太宰權帥光隆二男号
壬生三位宮内卿新古今撰者女之
内本名推隆母大皇后官亮實兼
朝臣女俊成卿門号云寒蓮法師
號也

利基子良門孫中納言形部卿

兼輔

為賴

官亮

賴成因幡守

清隆御中納言

光隆御中納言

隆祐

徒二位家隆

後鳥羽院

諱守成後鳥羽院弟二皇子母

贈左大臣信隆女性子七條院

之系圖前に見ゆる

諱守成後鳥羽院弟四皇子母

贈左大臣信隆女性子七條院

之系圖前に見ゆる

順德院

諱守成後鳥羽院弟二皇子母

修明院藤原重子贈左大臣範

季女系圖前に見ゆる

前大僧正慈圓

諱道快弟六十二代座主謚号

慈鎮号吉水和尚養和八年

十月六日改名慈圓系圖前

あり

古今撰者系圖前に以り

權中納言定家

後成男号京極中納言入道母若狭守親

忠女定家卿母親忠女とく美福門院女

房伯耆とく初嫁藤原為経生澄信

朝臣正三位民部卿本名光季改定家新

古今撰者系圖前に以り

百人一首作者部類

天子八人

天智天皇

持統天皇

陽成院

光孝天皇

三條院

崇德院

後鳥羽院

順德院

入道前大政大臣

後京極摠政

元良親王

親王二人

式子内親王

貞信公

執政四人

謙徳公

法性寺閑白

後京極摠政

河原左大臣

三條右大臣

後德寺九大臣

鎌倉右大臣

入道前大政大臣

大納言二人

久任卿

中納言父

經信卿

家持卿

行平卿

兼輔卿

敦忠卿

朝忠卿

定賴卿

匡房卿

定家卿

大中臣能宣

藤實方

參議四人

仲磨卿

篁卿

等卿

雅經卿

道雅卿

顯輔卿

俊成卿

家隆卿

在原業平

藤敏行

源宗子

大中臣能宣

藤原道信

源俊賴

藤清輔

藤義孝

五位二人

藤基俊

地下十七人

大屋康秀

大江平里

允河内躬恒

壬生忠峯

坂上是則

春道列樹

紀友則

藤真風

紀貫之

清原深養人

文屋朝康

平兼盛

壬生忠見

清原元捕

曾称好忠

源重之

源兼昌

女房二人

右大將道綱母

官女十七人

儀同三司母

小野小町

伊勢

右近

和泉式部

紫式部

大貳三位

赤染瀬門

小式部内侍

伊勢大輔

清少納言

相摸

周防内侍

祐内親王家紀伊

待賢門院堀川皇室御院別當

般富門院太輔

二條院讚岐

僧上三人

遍昭

行尊

慈圓

喜撰

法師九人

能因

俊惠

西行

良還

道因

人麿

此外四人

寐蓮

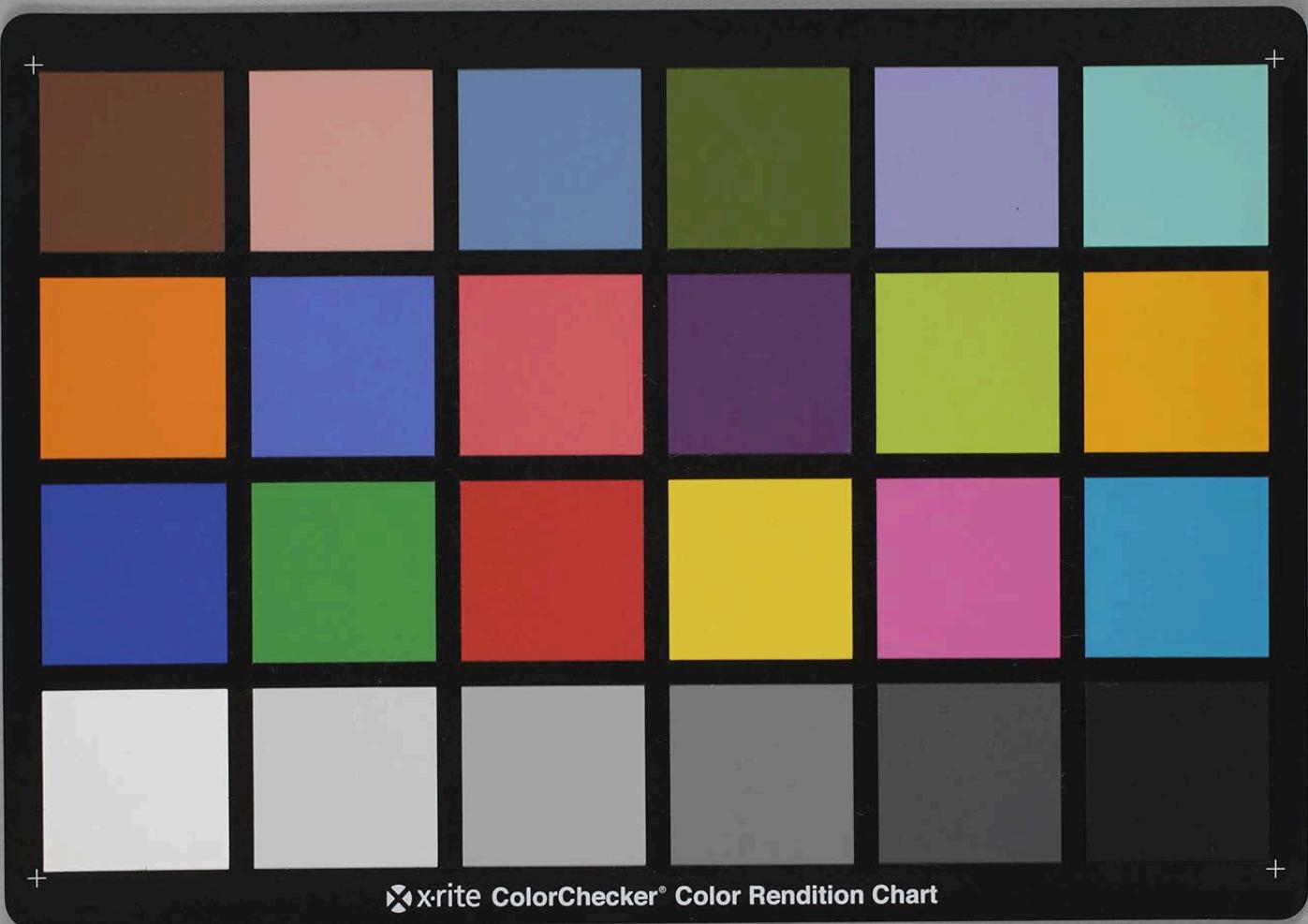
猿丸太夫

蝉丸

管家神

以上百人也





x-rite ColorChecker® Color Rendition Chart